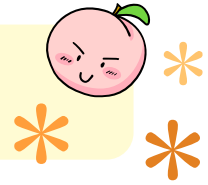


つきみ はなし お月見のお話（小）



ことし がつ にち じゅうごや じゅうごや だんご
今年は、9月13日が十五夜です。十五夜には、団子やススキを
そな つきみ つきみ ちゅうごく へいあんじだい
お供えしてお月見をします。お月見は中国から伝わり、平安時代には、
うつく つき たの
美しい月を楽しむようになりました。

つき むかし のうぎょう ふか かか ひとびと つき み か
月は昔から農業に深く関わってきました。人々は、月の満ち欠け
み のうさぎょう めやす
を見て、いつ、どんな農作業をしないかを目安に
ていました。月のおかげで食べ物たが育ち、収穫そだできることから感謝
きも ほうさく ねが だんご そな
の気持ちとこれからの豊作を願って、団子やススキをお供えし、お
つきみ
月見をするようになったのです。

ではなぜ、お月見には団子やススキをお供えするのでしょうか。
い み だんご まる つき かたち
それぞれに意味があります。団子は、丸い月のような形をしていま
むかし まる かたち えんぎ よ まる だんご た
すね。昔から丸い形は縁起が良いとされており、丸い団子を食べ
ることによって健康けんこうや幸せしあわになれると考えられていました。また、
かみさま まね めじるし かざ げんかん
ススキは神様をお招きする目印となり、飾ったススキを玄関につる
すことで、一年間病気いちねんかんびょうきをしないとも言われていました。

ことし じゅうごや いちねん けんこう しあわ ねが だんご あじ
今年の十五夜は、一年の健康や幸せを願って団子を味わいましょ
う。